

(様式5)

令和6年度 上市高等学校アクションプラン -1-	
重点項目	生活指導
重点課題	①基本的な生活習慣の確立 ②学校生活および社会生活への適応
現 状	①「基本的な生活習慣の自己管理」「身だしなみを整える」「公共のマナーを守る」等を指導重点として規律と秩序ある校風作りを進めている。 ②通学駅や玄関前での挨拶や服装指導を行っているが、コミュニケーションをとることが苦手な生徒や制服を着崩している生徒が見られる。 ③SNSに起因した人間関係トラブルが増加傾向にある。意識啓発に努めるとともに、適切な指導を早期に行っていく必要がある。
達成目標	①②年間の遅刻生徒回数の減少に向けて、生徒の意識改善を促す指導の充実 ③携帯電話の違反数(ルール違反・ネットパトロールによる指導)の指導件数の減少 ①②前年比10%の減少 ③前年比10%の減少
方 策	①②遅刻回数が多い生徒には、5分前に着席完了できるように生徒の自己管理と意識改善を促す。毎朝、玄関前指導を通じて挨拶を交わしながら生徒とのコミュニケーションをとる。さらに、進路指導と絡めて、社会人としての在り方を考えさせ、生徒主体の指導体制を工夫し、生徒の内面的な成長を促す。 ③生徒理解と家庭との連携に努めている。教育相談の充実や教職員間の共通理解と連携強化がさらに必要である。生徒がいじめ等のトラブルや犯罪に巻き込まれないようにするとともに、学習への悪影響を防ぐため、生徒・保護者の意識の改善を図る。
達成度	①遅刻回数については、前年度と比較すると1学期(374→342)、2学期(702→608)と減少した(12.7%減)。減少はしたもののまだまだ遅刻の回数が多い。基本的な生活習慣の確立、規範意識の向上を玄関前指導や上市駅での指導、学年集会等を通して呼びかけていきたい。また、遅刻の回数が多い生徒に対しては個別に生活習慣の見直しを促すとともに、家庭との連携を図り、粘り強く指導・支援していきたい。 ②定期頭髪服装指導で再指導を必要とした生徒は、年間で323人→258人と減少した(20.1%減)。減少はしたものの普段学校生活での頭髪服装については、まだまだ改善の余地がある。頭髪服装指導の時だけでなく、日常生活から身だしなみを整える大切さを①と同様に指導・支援していきたい。 ③2学期末までで、スマートフォンの使用違反延べ件数は206件→165件で減少した(20%減)。主な要因として、各学年及び授業出講者による指導の徹底があげられる。引き続き全校生徒への指導に加え、学年と連携して指導を行っていきたい。
具体的な取組状況	①②毎朝の生徒玄関前、週3回の上市駅での挨拶や頭髪服装についての声かけを教員だけでなく、さわやか委員の生徒と一緒にしながら、生徒主体の取り組みや生徒間での意識作りを大切にしたい。また、生徒自らが毎月の指導重点目標を設定し、放送で呼びかけながら、具体的な目標を持って生活できるようにしたい。また、図書部が行っている朝読書を遅刻防止にもつなげ学校全体の取り組みとした。 ③交通安全教室、着こなしセミナー、ネットトラブル防止教室、こころとからだの講座、薬物乱用防止教室、SNS危険防止研修会など外部の専門家の講話を通して生徒の安全と規範意識を高めるように指導した。
評 価	A
学校評議員の意見	社会では人とのつながりがより重要になる。社会に向き合うことはとても大切。会社の上司がおはようといっても挨拶を返してくれない若者のニュースを見た。挨拶は大切だということを今後も教えていただきたい。
次年度に向けての課題	①②③ともに今後の課題としては、生徒会を中心として生徒が生徒のためにルールを見直しルールを作っていく機会を考えていきたい。そのためには、ルールはなぜあるのか？学校は何をしたらいいのか？など多くのことを生徒と教員が話し合い、よりよい学校生活を送れるようにしたい。

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状のまま D：後退した)

(様式5)

令和6年度 上市高等学校アクションプラン -2-

重点項目	教科指導		
重点課題	基礎学力の定着に向けた教科指導等の改善		
現 状	<p>昨年度、「学び直し」として義務教育段階の学習内容をタブレットで自学自習する時間「リスタ」を1・2年生で週に1度(50分)、2学期まで実施し、以下の結果を得た。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学び直しに「やりがい」を感じた生徒の割合が1年生は59.5%、2年生は34.0%だった。 ・基礎力診断テストを実施しない学年があり、客観的なデータを検討する機会がなかった。 ・進学や就職で困難な状況が予想される成績区分D3の生徒に対して、教員が自作プリントを作成し、声をかけながら取り組ませた結果、粘り強く課題に取り組む生徒や褒められて喜ぶ生徒の様子が見られた。 ・本校の生徒に必要な「社会人基礎力」を各教科で検討し、それらを授業で指導する方向性とした。 <p>昨年度までの取り組みをふまえ、今年度はタブレットを使用した自学自習の「リスタ」を廃止し、授業の中で「学び直し」を実施することや全学年で基礎力診断テストを実施することとした。</p>		
達成目標	①「学び直し」に対する意識の向上	②基礎力診断テスト等の結果の検討	③授業における「学び直し」の定着
	・学び直しに「やりがい」や充実感を感じる生徒の割合を60%以上にする。	・基礎力診断テスト等の結果を教育課程委員会や職員会議で検討し、授業改善につなげる。	・各教科で指定した授業の年間指導計画に「学び直し」を明確に位置づける。
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・「学び直し」の内容や進度についてアンケートを実施し、生徒に「学び直し」の意義を意識させる。 ・授業中に単元テストを実施し、生徒が分かる喜びやできる喜びを感じられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導部と協力し、基礎力診断テスト等の結果を各会議に提出する。 ・義務教育範囲の得点率の変化やD3の生徒の割合を全教員が把握できるように情報提供する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「学び直し」講座の年間指導計画に、義務教育範囲の学習内容とその実施時期を設定し、提出してもらう。 ・実施状況を各教科会議で検討する。 ・本校の生徒に必要な「社会人基礎力」について検討する。
達成度	達成	達成	<ul style="list-style-type: none"> ・年間指導計画 達成 ・各教科検討 未達成
具体的な取組状況	<p>①「学び直し」アンケートを実施 【1年次生・1学期末アンケート結果】</p> <p>(1)「学び直し」取り組み状況 意欲的に取り組んだ・84.6%</p> <p>(2)「学び直し」への意識 大事だと思う・・・92.4%</p> <p>(3)今後の「学び直し」について 今後取り組みたい・94.5%</p> <p>②各教科の授業で「学び直し」を行い、単元ごとにテストを実施した。</p> <p>【上記アンケート結果】</p> <p>(1)1学期授業の理解度 理解できた・・・78.0%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・第7回職員会議で副校長より基礎力診断テストの分析結果を発表し共有した。また、テスト結果がでしだい、進路指導部で教員パソコンに掲載し共有した。 ・今後はテスト結果を踏まえて、各教科で成果と課題について、検討する予定。 <p>【D3生徒の割合の推移】 (4月、7月、12月結果)</p> <p>①1年 44.4%→50.0%→37.1%</p> <p>②2年 45.6%→35.8%→25.2%</p> <p>1・2年次生ともに、D3の生徒は少なくなった。授業内「学び直し」の取り組み方法についてより良いものとなるよう検討していく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各科目担当者から年間指導計画に「学び直し」の学習内容を明記し提出していただいた。 ・各教科会議での「学び直し」の実施状況や社会人基礎力の検討は、第2回の基礎力診断テスト結果が出てから実施する予定。
評 価	A	A	B
学校評議員の意見	学び直しをやってくれていることがよいと思う。学校で一番時間をかけているのは授業である。子供の「わかった」「楽しい」を積み上げていけたらと思う。		
次年度に向けての課題	<p>① 今年度に引き続き、基礎学力の定着を図るため、生徒が学び直しの意義を理解し、意欲的に取り組むように指導する。授業の理解度を高める。</p> <p>② 基礎力診断テスト(義務教育範囲の得点率)を踏まえ、さらにD3区分の生徒の割合が少なくなるように各教科・科目の授業内で取り組む。</p>		

(評価基準 A : 達成した B : ほぼ達成した C : 現状のまま D : 後退した)

(様式5)

令和6年度 上市高等学校アクションプラン -3-			
重点項目	進路指導		
重点課題	生徒の職業観を早期に育て主体的に進路先を探していくための情報提供と進路指導		
現 状	①進路目標の設定が遅れる生徒はしっかりとした職業観を育てていく必要がある。 ②県内外進路研修、インターンシップなど多くの進路学習が行われているが、生徒は受動的であり、個々の活動を系統的に生かし、進路意識を高めていくことが必要である。		
達成目標	1学年 ①進路研究を深めるため、県内を中心とした体験的行事に積極的に参加させる。 ②県内等の体験的行事に年2回以上参加した生徒の割合が30%以上	2学年 就職希望者のうち、インターンシップに参加する生徒の割合100%	3学年 第一希望の進学合格率と就職内定率90%以上
方 策	①-1上市高校キャリア教育プログラムの「職業を知る会」「職場見学」「インターンシップ」に多くの生徒が参加することで、早期に職業に触れ、職業観を育成していく。 ①-2北陸の大学や医療系の学校の入試難化や、学校推薦型選抜を含め多様化が進む入試システムに対応し、入試関係の情報を随時、生徒・保護者に提供する。 ②-1新型コロナウイルス感染の沈静化により、本校に寄せられる求人数が上昇傾向である。この傾向に対応し、生徒の求職活動を十分に支援するために、企業の採用情報を的確につかみ、情報提供に努める。 ②-2オープンキャンパスや各種施設見学など、体験的な学習への参加を生徒に勧め、受験への意欲付けや就職後のギャップを減らす。 ②-3教職員の進路研修の一環として、主に進学実績のある大学・短大等の学校説明会や入試説明会への参加を勧める。		
達成度	県内・県外の体験的行事に参加 2回以上4名 全生徒の5% 体験的行事参加者の33%	インターンシップ参加者40名 就職希望者11名(28%) 進学希望者29名(72%) 就職希望者の参加者が少ないが、進学希望者の内、約半数は進学後に資格取得が必要な体験先であった。実質、就職を見据えて参加した生徒は26名(65%)である。	進学者の第一希望合格率 大学67% 短期大学100% 専門学校98% 計93% 就職内定率 希望者40名 一次内定38名 一次内定率95%
具体的な取組状況	①-1 例年どおり、上市町、ハッピー上市会ほか各企業等の協力を得て、キャリア教育プログラムを実施し、のべ515名(377人,96人,42人)の生徒が参加した。 ①-2 入試関係の情報提供は資料配付を中心に行った。 ②-1 500件を超える好調な求人状況であったが、今年度求人をいただけない企業も複数あった。求人票到着前の6月に例年求人への依頼のある企業に連絡し、求人予定の調査をした。同時に不採用の企業にも理由の確認を企業訪問して確認した。 ②-2 体験的な学習への参加呼びかけは、資料の配付と授業の一部を使って、見学や体験の大切さを伝えた。 ②-3 教職員に大学等の説明会に参加するよう勧めたところ、例年進学者のいる大学等の説明会に教職員が多数参加した。		
評 価	C	C	A
学校評議員の意見	就職内定率が目標を達成したことは、模擬面接をした者としてほっとしている。協力した他の方にもフィードバックしてもらえどうれいのではないかな。		
次年度に向けての課題	1 進学 学年の協力を得て今年は4年ぶりに公立大学の合格者が出た。来年度も、早めの学力補充などを学年・教科の協力を得て合格者を出したい。 2 就職 企業訪問したところ、早期離職者が企業によるが多数存在する。離職者が減少するよう企業との情報交換をしつつ、ミスマッチの少ない応募先選びを進めたい。		

(評価基準 A: 達成した B: ほぼ達成した C: 現状のまま D: 後退した)

(様式5)

令和6年度 上市高等学校アクションプラン -4-	
重点項目	特別活動
重点課題	ボランティア活動、異年齢交流や部活動を通しての学校生活の充実
現 状	<p>①校内外の行事に対して生徒会執行部は活発だが、一般生徒の意識はそれほど高くない。令和5年度のボランティアサポーター登録数 84 名で、学校で把握しているボランティア活動に参加した者は延べ人数 123 名であった。また、希望しても無断で欠席するなど活動意欲が不十分な生徒も見受けられる。</p> <p>②昨年度より新入生の活動を希望制とすることで、意欲的な部活動を行いやすい環境を整えた。しかし、それでも部登録はしているが活動していない生徒や、安易に退部する生徒も多く見られた。継続して部活動を続けている生徒は、全体の 71.8%である。令和5年度は全学年平均 68.0%の生徒がやりがいを感じて最後まで継続して部活動に取り組みたいと答えている。</p>
達成目標	<p>①ボランティア等の校外活動の参加数 延べ人数 150 名以上</p> <p>②部活動にやりがいを感じて最後まで継続したい生徒の割合 80%以上 (12 月にアンケート実施)</p>
方 策	<p>①生徒会及び各種委員会と連携を図りながら、活動の輪をひろげる。また、地域交流や校内外でのボランティア活動、クリーン活動、家庭クラブ活動に対する広報活動を促進し、主体的に参加することへの意欲を高める。</p> <p>②新入生の部活動参加を希望制とすることで意欲のある者たちの活動を目指す。部活動の必要性や魅力を理解させ、体力や技術、意識の向上とともに人間的な成長と個性の伸長を実感させ、学校生活の充実を図る。また、部長会議を前期後期各2回以上実施し、状況把握を行うとともに、必要な対策を行う。</p>
達成度	<p>・1月末現在、ボランティアサポーター登録数 77 名、校内で把握しているボランティア参加者数は 92 名である。その他に、クリーン活動で 37 名、家庭クラブで 14 名、各所で保育園や老人施設で行った活動に延べ 28 名参加している。学校把握の人数は延べ 171 名で、さらに、個人的に各地の児童クラブや社会福祉協議会主催の活動に参加している者もいるとみられ、目標数より多くの者が活動できていると思われる。アンケートでも「もっとやりたい」という声が聞かれるが、特定の者が多く参加している状況もみられる。</p> <p>・12 月末にアンケートを実施し、「自分なりの目標を達成できた」と答えた生徒は 55.7%、「やりがいを感じて積極的に取り組んでいる」と答えた生徒は 40.8%であった。部活動をしていない者が多い中で残念な結果となった。理由として回答されたのが、「顧問がなかなか参加しない」「専門的な技術を教えてほしい」など、教員側とのずれをあげる意見が多かった。生徒たち自身がリーダーシップを発揮して自発的に活動できなくなり、その結果、部活動に不満をもっているものと考えられる。</p>
具体的な取組状況	<p>①学校にも社会福祉協議会をはじめとした各機関から活動の依頼が多くなり、参加する機会が増えたものと考えられる。また、教員のワークグループが仕掛け人となり、「スポGOMI」を全校に提案したことも一因と考える。</p> <p>②部長会議を計4回行った。しかし、内容が部運営の注意にとどまり、各活動の活性化につながりにくかったのではないかと考えられる。</p>
評 価	A D
学校評議員の意見	<p>前回は比べて先生方や生徒の思いがより伝わってくる。インスタも日々チェックしていて、高校生の姿を目で見てわかることができ、親近感を感じている。さらに続けて充実させてほしい。何をやっているのか、実際の姿を見たい、生徒との意見交換をしてみたいという気持ちが出てきた。生徒の意欲が増したり、興味が高まったりする様子を見て、自分も協力したいと思う。</p>
次年度に向けての課題	<p>・ボランティア等の活動では、積極的に活動する者も増え、活性化されてきたと感じるが、全校規模ではまだまだである。その他大勢も意欲をもって活動できる素地の醸成に努めたい。</p> <p>・部活動の活性化のため、さらなる外部人材(エキスパート・外部コーチ)の活用を進めたい。また、顧問の参加回数確保のため、校内の会議・行事を精選し、教員が動きやすい放課後の時間確保を考えたい。</p>

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状のまま D：後退した)